

AIで高糖度トマト栽培

静岡大の研究者らが人工知能（AI）を活用した高糖度トマト栽培の



実証実験に成功した。コンピュータが水やりの適切なタイミングを管理することで、糖度の高いトマトを安定的に生産できるといふ。



【高糖度】

静岡大 実証実験に成功

実証実験を行ったのは、情報学部教授の峰野博史教授の研究室。トマトは水分が欠如した適度な「一水分ストレス」下で栽培すると甘くなるのが知られている。一方で、水やりの量や頻度を間違えると葉が枯れてしまったり、逆に実が大きくなりすぎ皮が破れたりする。多くの農家は育成状態を観察しながら自身の経験に基づ

に、「この「ストレス栽培」を実践しているという。峰野教授らは、植物の「しおれ具合」でどの程度の水分ストレスの状態にあるか把握できると考えて、定点カメラで1分ごとの茎の太さを撮影しデータを収集。他にも温度や湿度などの環境データもまとめ、コンピュータ

「どのような栽培環境の時にどれくらいしお

適切な水やりを管理



れるか」という関係性を学習させ、水を与える最適なタイミングをAIが判断するようになったと

この仕組みを利用することで、平均糖度8度を

は「新たな就農者を後押しできる」と期待。「農家さんが培ってきた長年の経験や技術を、AIを用いることで効率的に継承してもらい、食品の安定供給にもつながる」としている。

を超える高糖度トマトを大量に安定的に生産することができるといふ。長年の農業経験がない人でも付加価値の高い甘いトマトを生産することができる可能性が高い、峰野教授

AIの水やり制御機能で栽培された高糖度トマト―峰野博史教授提供